

TOPICS | カンボジア紛争予防・平和構築

カンボジアでは、長い内戦がもたらした多数の小型武器の存在が同国の治安を脅かし、平和で安定的な社会構築の妨げになっています。日本政府は、カンボジアにおける小型武器対策のための無償資金協力をを行うことを表明しました。

JICSはこの無償資金協力の実施監理機関として、カンボジア国内に発足させた日本小型武器対策支援チーム(JSAC)を監理、支援しています。



警察に武器を供出する住民



カンボジアにおける平和構築と包括的小型武器対策プログラム

カンボジアでは、21年にもおよぶ内戦が終結してすでに10年以上が経過しています。しかし、今なお大量の小型武器が残っており、平和な社会構築の阻害要因のひとつとなっています。このため、日本政府は2003年1月、「カンボジアにおける平和構築と包括的小型武器対策プログラム」実施のため、平和構築無償援助(フェーズ1)を行いました。

JICSは、本案件の調達監理機関として同年4月、同国内に日本人スタッフ4名と現地スタッフ11名による日本小型武器対策支援チーム(JSAC)を発足させ、同国西北部3州(シエムリアップ州、オダミンチェイ州、バンテミンチェイ州)を対象に、小型武器回収、地域住民に対する啓発活動などを開始しました。

これまでの活動は大きな成果をあげ、その後、2005年1月、この成果をさらに発展させるため、西北部3州に隣接し、同国内でも経済的に貧しく、武器による犯罪がいまだに多いとされるプレイビヘア州とコンポントム州を主な活動地域として、平和構築無償(フェーズ2)が実施される予定です。



小型武器の破壊式典。市民らによって点火される。

カンボジアにおける平和構築と包括的小型武器対策プログラム

- 供与額 フェーズ1 4億50百万円（2002年度）
 フェーズ2 4億66百万円（2004年度）
- 政府間合意日 フェーズ1 2003年1月13日
 フェーズ2 2005年1月18日
- 目的 カンボジアの平和構築を目的とする小型武器回収の支援



燃え盛る小型武器。「平和の炎 (Flame of Peace)」とよばれている

● JICS の役割

本プログラムの監理のため、日本小型武器対策支援チーム (JSAC) を現地に発足させ、以下のプロジェクトを展開している。

平和のための小型武器削減と開発プロジェクト

自発的武器供出者の希望に沿った学校や井戸などインフラ整備の支援。

小型武器破壊プロジェクト

カンボジア政府主催の武器破壊式典の支援。2005年6月現在、破壊された武器はすでに1万丁を超えている。

小型武器管理・登録支援プロジェクト

警察（内務省）が合法的に保有する小型武器の管理と登録の支援。

意識向上プロジェクト

地域住民への武器供出のための啓発活動。



「武器はもういらぬ」のスローガンが書かれた看板

National Commission 支援プロジェクト（2004年度プログラムより）

武器管理を統括している政府機関である National Commission の体制強化、キャパシティビルディングの支援。



武器供出者のニーズにより学校や校内トイレの設置などのインフラが整備された



銃器の管理システムについて説明を受けるカンボジア内務省職員（福井県警にて）

JSACの活動内容についてはホームページ (<http://www.bigpond.com.kh/users/adm.jsac/>) もご覧ください。